

GENBA Plus User Repo & Interview 11



施工例：モデルハウス「ネクストハウス立川」(外観)

「使いやすさ」で現場 Plus を選択
独自の用法で活用フィールドを広げ
現場効率化&顧客満足向上を目指す

ネクストイノベーション株式会社 (東京都新宿区)

Interviewee：川名真治 様 (専務取締役)

日野拓望 様 (現場監督 主任)

ネクストイノベーションは、首都圏で木造注文住宅の設計・施工、販売を展開する NEXTGROUP の中核企業である。現在では新築からリフォーム、分譲、増改築、各種ビル建築までフィールドを広げ、2023 年には DX 化を目指す取り組みの一環として「現場 Plus」を導入。独自の活用法で効果を上げている。ユニークな運用の詳細について同社の日野拓望氏に伺った。

顧客満足度向上に現場 Plus が効果的

——まず貴社のご紹介をお願いします

日野氏 ●木造注文住宅の設計・施工をメインに取り組む会社です。供給棟数は東京地区を中心に年間 150 棟弱ですが、フィールドは急速に広がっています。都内の物件と共に遠方のお客様も出てきました。たとえば愛知や千葉のグループ会社から依頼が来ることもあります。東京へ転勤するので家を建てたいという愛知のお客様が、愛知のグループ会社で打合せして施工を当社が担当するとか……。また、都内でビルものを扱う部署 (特建事業) から木造建築を依頼されることもあります。コンクリートや鉄骨、鉄筋の価格が高騰して



担当現場の状況を現場 Plus で確認

いることもあり「木造で大型建築を建てたい」お客様が増えているのです。広い分野で社長の可能性が広がりつつあると感じます。

——貴社が家づくりで大切にしているのは？

日野氏 ●家づくりの全てで顧客ファーストというか、お客様との距離感をとても大切にしている会社です。近年特に「お客様の満足度の向上」に力を注いでおり、さまざまな取り組みを進めています。実は現場 Plus もこの取り組みで大きな役割を果たしているんですよ。

——では現場 Plus の導入経緯をご紹介ください

日野氏 ●2 年ほど前に別の現場管理ソフトを導入して使っていましたが、昨年、現場 Plus に乗り換えたんです。乗り換えの一番大きな理由は、DX 化の取り組みの一つであるクラウド型の積算システムの導入です。当社ではこのシステムを現場管理ソフトに紐づけ、職人への請求関係や受発注もサイト上で管理したいと考えていました。ところがその他社ソフトはコストの問題から実現が難し

く、その点、現場 Plus ならコスト面も機能面も問題なく行ける!と。それですぐに導入が決まりました。

——ソフト乗り換えには抵抗もあったのでは？

日野氏 ●もちろんそういう声もありました。でも、実際に現場 Plus を使ってみると「こっちの方が使いやすい」「いろいろ便利な機能がある」という声が大きくて……。私自身も、現場 Plus は納品管理等いろんなモノと紐づけられ当社流の使い方も工夫しやすいので、そこも含めてとても気に入っています。実際、現場への普及も思っていた以上に進んでいますよ。

現場 Plus の活用で変わりゆく現場

——現場 Plus の方が使いやすいのはどんな所？

日野氏 ●よく聞くのは「工程表」の使いやすさです。複数現場の工程を 1 画面で表示できて、担当者の重複チェックや工程の細かな検討も容易です。他ソフトではなかなかここまでできないんですよ。たとえば各業者の納品日指定も、現場 Plus の「納品管理」を使えば業者

【ネクストイノベーション 会社概要】

所在地/東京都新宿区 設立/2005 年 11 月 グループ/NEXTGROUP (ネクストイノベーション・西東京建設・愛知建設・FIT・第一建材工業・君津住宅) 代表者/代表取締役 豊蔵一幸 事業内容/戸建住宅の新築・建替・分譲・増改築、外構、特建事業他



川名真治 氏

日野拓望 氏

最終的には、誰もが17時定時にちゃんと上がれる体制にしていきたい
それには現場Plusの活用が、大きなカギになると思っています



施工例：モデルハウス「ネクストハウス立川」(内観)



施工例：モデルハウス「ネクストハウス立川」(内観)



日野拓望氏と工務アシスタント(本社ロビー)

が確認してくれたかどうか、こちらでチェックできる。結果「漏れ」は無くなるし「先方が見えない」場合もすぐ分かり対処できます。また、現場Plusの工程表は各工程を担当に振り分ければ皆が閲覧できるので、大工との打合せも「〇日頃になる見込み」等と説明しやすく見ながら調整できるし、すごく便利です。

——導入による「現場の変化」は感じますか？

日野氏●ありますね。特に前述の工程表を業者や職人と簡単に共有できるのが非常に大きくて……。たとえばこちらで不測の事態が発生した場合も、調整し直して工程表を変更すれば即座に関係者に伝わる。業者同士もそうやって確認できるから、「ウチの業者はここは無理だよ」といったやり取りもスピーディに行えます。さらに当社独自の工夫として、当社ならではの納まり等を資料集の形で現場Plusに蓄積して、全業者に共有させています。

——資料集を現場Plusに蓄積している？

日野氏●ええ。納まりとか、他社ではなかなか見られない作り方をしている所があって……。たとえば建具の扉の下に付く床の見切りの位置とか、すごく細かい所ですが会社ごとに少しずつ違うんです。なので現場に新規の大工が入る場合など、そういった独自の納ま

りを知ってもらう必要があります。そこで現場Plusの中に架空の物件を作っておき、そこへ決め込んだ図面や各種納まり、外装の仕様等を写真と共に保存し全業者に共有してもらっています。新しい大工が現場に入る時も、それを見てもらえば画像等で容易に伝わるので、説明の手間は無くなります。「納まりが分からない」とか「図面が無いからできない」といった業者の文句もなくなりましたね(笑)。

■さまざまに広がる現場Plus活用法

——顧客満足向上にもお役に立っているとか？

川名氏●そうですね。進行中の物件では施主に週1回の定期報告を行っていますが、これに現場Plusを使っています。特に会話形式でやり取りできる現場PlusのTalk機能も、お客様とのコミュニケーションに効果的と感じます。

——どのような点が効果的なのですか？

川名氏●以前、別のモバイルメッセージャーを使っていましたが、トラブルになりやすかったんです。そのアプリは見ると既読が付くため、お客様の質問に返信が遅れると既読スルーと取られ、お怒りを買いかねません。現場Plusなら既読/未読が先方に伝わらず、しかも、こちら側は分かるので、担当者の返信

遅れに「質問来てるよ」とか「早く返事して」と通知できます。工夫次第で活用の幅が広がるツールなんですよ。これをどう活用するか、各地区工務部の腕の見せ所になりそうですね。

——日野さんもいろいろ工夫しておられますね

日野氏●いま制作中なのは「点検一覧」機能の新しい活用です。本来は安全パトロールで使うここに、各工事の項目ごとに確認すべき項目をリスト化した現場検査表を作って収納しています。たとえば基礎屋さんの現場入りタイミング用に「家の位置を最終確認する」等の検査項目をリスト化し配置検査表を作成。従来は紙媒体に作り検査したら〇を付ける形でしたが、チェック状況や是正状況を共有し難く上手くいかなくて……。そこで現場Plusを活かしてデジタル化しようと考えたのです。

——具体的にはどんな使い方に？

日野氏●現場Plus上で各現場の検査表を共有し、各現場ではそれを見ながら点検し撮影して〇×でチェックを入れていきます。そして、駄目だった箇所は平面図にチェックを入れコメントや写真を付けて戻し、これを共有すれば問題箇所の対処も確実にできるのでは……と期待しています。新たに検査専門の部署ができたので、そこで使ってもらうつもりです。

(取材：2024年3月)

福井コンピュータアーキテクト株式会社

本社／福井県坂井市丸岡町磯部福庄5-6 <https://archi.fukuicompu.co.jp>
札幌・盛岡・仙台・水戸・宇都宮・高崎・新潟・長野・さいたま・千葉・東京・静岡・名古屋・岐阜・福井・京都・大阪・神戸・岡山・高松・松山・広島・福岡・別府・宮崎・鹿児島・那覇

●導入に関するお電話でのお問合せ・ご相談は
【福井コンピュータグループ総合案内】
0570-039-291



●体験版ダウンロード・資料請求はHPから
福井コンピュータアーキテクト **検索**
archi.fukuicompu.co.jp